

# 平成28年度の管理運営状況(若洲ヨット訓練所施設)

指定管理者:若洲シーサイドパークグループ

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等																										
管理状況	適切な管理の履行	設備の保守点検	施設等の点検については、利用者の安全・安心を確保するため、日々の日常巡回点検を通じて不具合箇所の早期発見に努めた。特に、施設の補修については、予算の範囲内で、緊急の工事(電話配線老朽化に伴う工事)や教室運営に必要な工事(ヨット補修)等、優先順位の高いものから順次外注し実施するとともに、園内の松の剪定や枯木撤去、ヨット昇降用スロープの防滑用の清掃作業等については、高所作業車や洗浄機を活用した直営作業を実施するなど、外注と直営による作業をバランスよく行い、予算の範囲内での適切な施設の管理に努めた。 また、老朽化が進む教室用ヨットについては、補修専門のテクニカルスタッフによる艇のメンテナンスを適切に行い、ヨット教室の安定的な運営に繋げた。																										
	安全性の確保	安全性の確保	(教室運営にあたっての安全性の確保) 教室運営にあたっては、お客様の安全を第一に、以下のとおり、様々な取組を着実に実施し年間を通じて事故無く安心して安全な教室運営に努めた。 ・有資格者で経験豊富なインストラクターの配置(日本セーリング連盟認定・バッジテスト中級以上) ・教室開催前のインストラクター全員でのミーティングによる情報共有の徹底 (当日の教室スケジュール・参加者のレベル・当日の気象及び海象情報等の確認等) ・教室開催中の無線による状況確認及び情報交換 ・リアルタイムでの気象・海象チェック ・監視カメラによるヨットの動向及び周辺海域の監視 ・受講者数に応じたレスキューボートの配置 ・教室で使用する艇の事前・事後点検の実施 (施設運営にあたっての安全性の確保) 地震等の大規模災害への適切な対応にむけては、現場独自の防災訓練の他、東京都の一時滞在施設としての訓練や本社と連携した情報伝達訓練など、積極的な防災訓練の実施を通じて災害時における危機管理能力の向上を図った。  H29年2月21日 ①若洲地区【ゴルフ・キャンプ・若洲協議会との連携】の総合防災訓練 (避難誘導訓練やAEDの使用方法等実践的な訓練の実施) ②一時滞在施設としての受入訓練 (帰宅困難者の対応訓練やMCA無線、緊急電話等の使用訓練) H29年2月27日 本社も含めた会社全体での防災訓練(情報伝達訓練)																										
事業効果	利用の状況	個人利用者数	ヨット教室は昨年に引き続き、より多くのお客様が参加できるよう、通年で教室を開催し、広報東京都やホームページ等による広報を行い利用者確保に努めた。また、教室運営にあたっては、経験豊富なインストラクターを配置し、質の高いサービスを提供するとともに、テクニカルスタッフによるヨットの点検修繕を迅速に行うなど、老朽化が進むヨットの効率的な運用にも努めた。その結果、本年度の利用者数は1,666名となり、指定管理者制度となった平成18年度以来、最高の利用者数となった。  (利用者数推移) 【第1期/H18~】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>1,598人</td> <td>1,507人</td> <td>1,285人</td> <td>1,417人</td> <td>1,367人</td> <td>921人</td> <td>755人</td> </tr> </tbody> </table> 【第2期/H25~】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>168人</td> <td>1,120人</td> <td>1,575人</td> <td>1,666人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	利用者数	1,598人	1,507人	1,285人	1,417人	1,367人	921人	755人	年度	H25	H26	H27	H28	利用者数	168人	1,120人	1,575人	1,666人
	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24																					
利用者数	1,598人	1,507人	1,285人	1,417人	1,367人	921人	755人																						
年度	H25	H26	H27	H28																									
利用者数	168人	1,120人	1,575人	1,666人																									
利用者の満足度	利用者の満足度		教室に初めて参加した利用者を対象としたアンケートでは、受付窓口の対応、ヨット教室の内容、インストラクターの対応等の主要な項目で、「大変よい」若しくは「よい」とお答えいただいたお客様の割合がいずれも9割を超えるなど、教室運営についての高い評価をいただいた。																										
事業効果	スポーツ振興事業の実施	事業の取組	スポーツ振興事業では、計画に基づき、セーリング普及にむけた若洲ヨット祭りや障害者の体験乗船会、ジュニア育成にむけたマンスリーレガッタ等の事業を実施した。特に、障害者体験乗船会については、昨年に引き続き、積極的な事業展開を行った。本年度は、新たな取組として、日本セーリング連盟、日本障害者セーリング協会、日本視覚障害者セーリング協会の3団体との連携を通じて運営体制の強化・充実を図り、昨年度よりも多くの参加者を受け入れた。参加した方からは乗船会への好意的な声も多数いただいた。その他、当日の乗船会の模様はヨット専門紙にも取り上げられるなど、地道な取組が徐々に注目されるようになってきている。  【障害者体験乗船会参加者数】 H28・・・71名(参加者18名 スタッフ53名) H27・・・8名(参加者3名 スタッフ5名)																										
	自主事業	自主事業	本年度も計画に基づき、「ヨット体験乗船会」、「Tokyo Junior Youth」、「高等学校ヨット部活動支援事業」等の普及啓発及び育成事業を行った。運営にあたっては、経験豊富なスタッフにより、年間を通じて育成指導を行い、様々な知識やスキルを習得させた。本年度も、この育成事業から、多くの生徒が国内外の選手権等へ出場している。  ・ジュニアオリンピックセーリング大会 (H28.5月唐津) ・国際親善 日本ヨットクラブ競技会 上位入賞 (H28.8月若洲) ・岩手国体(420、レーザー級)レース ジュニアレーザー級部門優勝 (H28.10月岩手) ・全日本420・FJクラス選手権大会 420部門6位入賞 (H28.12月若洲)																										